

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 遠藤 麻里

論 文 題 目

都市風景考察のための ICT 利活用に関する研究

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 安田 孝美

委 員 名古屋大学教授 石川 佳治

委 員 名古屋大学准教授 秋庭 史典

委 員 名古屋大学講師 浦田 真由 (情報学研究科)

遠藤麻里さん提出の論文「都市風景考察のための ICT 利活用に関する研究」は、貴重な建物や街並みが価値を認められることなく失われてきたという課題に対し、地域独自の視点からの都市風景の考察が可能となるよう、ICT 技術を活用して、過去から繋がる都市風景に対する見識（ヴィジュアルリテラシー:VL）を高めるための手法と、効果検証のための実証実験についてまとめたものであり、全 8 章から構成されている。

第 1 章は「序論」であり、研究の背景、目的について述べている。

第 2 章「都市風景と社会背景」では、近代以降の社会背景と都市風景の関連性を考察し、時代ごとの政策と個人の価値観が都市風景に大きく影響を及ぼしていることを明らかにしている。その上で、地域独自の視点から街並みと建物の意義と価値を見出していくことが重要であるとの結論に至っている。

第 3 章「都市風景におけるヴィジュアルリテラシー」では、都市風景における VL を、人が都市の風景を見たとき、その中に存在する歴史的意義を見つけ理解できる能力と定義している。また古写真に着目し、ICT 技術を用いて都市風景の新旧をその場で見比べることを、都市風景における VL 向上の手法として提案している。

第 4 章「都市風景の中の歴史遺構における ICT 活用」では、第 3 章の提案手法の第一段階として、都市の中に存在する歴史遺構を認識し、その社会背景を知ることが目的としたアプリケーションを設計開発している。実証実験において開発した機能が、一般市民にとって歴史遺構に対する理解を高める効果があることを示している。

第 5 章「地域の歴史と風景における ICT 活用」では、第 3 章の提案手法の第二段階として、AR（拡張現実）機能を有する新たなアプリケーションの開発についてまとめている。対象を特定のエリアの都市風景に拡張し、実証実験を通じて市民に地域の風景の移り変わりへの関心を持たせ、その歴史的意義の理解に貢献したことを示している。

第 6 章「循環する世界での写真記録」では、実世界データ循環学の視点より、本研究において、現存する写真に都市風景の記録データとしての価値を付加し、新しいデータ循環と価値が創造される可能性について述べている。

第 7 章「都市風景における ICT 利活用に関する考察」では、都市風景の中の歴史的意義を理解するために、ICT 技術の活用が有効であったことを示している。

第 8 章は「結論」であり、本論文のまとめと今後の課題について述べている。

以上、本論文では、都市風景を作り出す建物や街並みの価値を認識するために、ICT 技術を活用し、都市風景に対する VL を高めるためのアプリケーション開発を行い、実証実験を通じてその効果を検証している。本研究成果は、ICT 技術を用いて、今後の都市の在り方について地域独自の視点からの考察を支援するものであり、学術的観点ならびに情報科学の実世界への応用に貢献するものである。従って、本論文提出者、遠藤麻里さんは博士(情報科学)の学位を受けるに十分な資格があるものと判定した。